

エコアクション21

環境経営レポート

(2023年10月1日~2024年9月30日)



2024年 10月31日発行

 昌栄電設 株式会社

環境経営レポート 目録

1. 組織の概要	P. 3
2. 対象範囲	P. 3
3. 環境管理体制	P. 4
4. 環境経営方針	P. 5
5. (基準年の環境負荷と) 環境経営目標	P. 6
6. 環境経営計画の内容	P. 7
7. 環境経営計画、環境経営目標の実績及び環境経営計画の 取組結果とその評価	P. 8
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P. 9
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P. 10
10. 代表者による全体の評価と見直しの結果	P. 11

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

昌栄電設株式会社
代表取締役 寺崎 孝浩

(2) 所在地

本 社：神奈川県川崎市川崎区浅田4-7-1
工事本部：神奈川県川崎市川崎区浅田4-16-16

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 寺崎 孝浩
担当者 伊藤 夢一
連絡先
電 話 044-344-4133
F A X 044-366-4751
e-mail: t_terazaki@shoei-d.jp
e-mail: y_itou@shoei-d.jp

(4) 事業活動の内容

- ・電気工事業、電気通信工事業
- ・政令指令都市・川崎市の公共インフラ施設（庁舎・学校・図書館・港湾・道路・公園など）における通信設備・電気設備の設置・改修工事。
- ・民間法人の社会インフラ施設（水素ステーション・データセンター・鉄道など）における通信設備・電気設備の設置・改修工事。

(5) 事業の規模

		(2023 度)
受注件数 (件)		153 件
売上高 (百万円)		424 百万円
従業員数 (人)		17 人
延床面積 (m ²)	本 社	257 m ²
	工事部	125m ²

2. 対象範囲

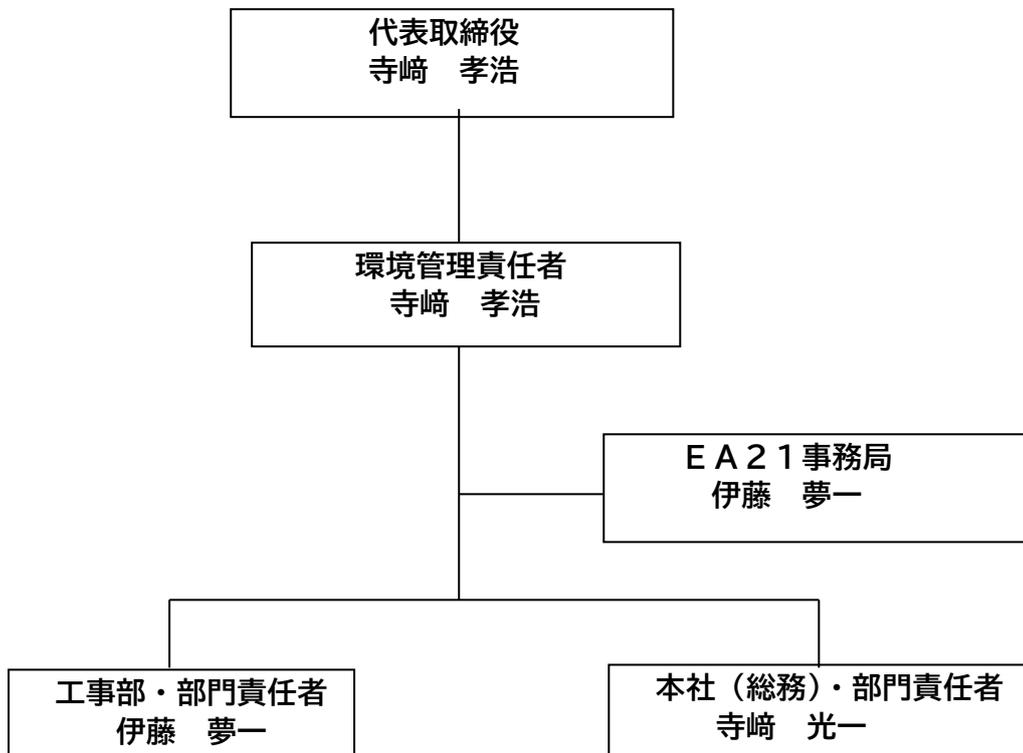
(1) 認証・登録対象組織

- ①本 社
- ②工事本部

(2) 認証・登録対象活動

当社で行う全ての業務

3. 環境管理体制



役職	責任及び権限
代表取締役	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境管理責任者の任命 2. 経営における課題とチャンスの明確化 3. 環境方針の制定 4. 環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 5. 環境経営システムの定期的見直しの実施 6. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 推進機関であるE A 2 1 EMS事務局の責任者として事務局運営 4. 各業務、役割に応じ、必要な教育、訓練を適切に計画、実施 5. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 6. 環境関連文書及び記録の作成、整理
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営方針を理解し、部門の環境経営計画に従って活動する

4. 環境経営方針

昌栄電設株式会社環境経営方針

環境理念

昌栄電設株式会社は、川崎市内全域を対象に事業活動を行っている企業として、建設業における環境への影響を考慮し、地域の環境保全と持続可能な地域づくりを図るため、全社で継続的な環境経営文化を醸成し、環境負荷の削減に取り組めます。

環境経営方針

環境関連法規、条例等を遵守すると共に、以下方針を全社に周知し環境経営の継続的改善に努めます。

1. 二酸化炭素排出量削減
 - ①電力使用量の削減（省エネ）による二酸化炭素の排出量を削減します。
 - ②車輛等の燃料使用量（化石燃料）の削減による二酸化炭素の排出量を削減します。
2. 一般廃棄物排出量の削減
 - ①分別を徹底し、一般廃棄物の削減を推進します。
 - ②再生コピー用紙の購入や裏紙の利用等による資源の有効利用を図ります。
3. 産業廃棄物リサイクル率の向上
分別を徹底し、産業廃棄物の削減とリサイクルによる資源化を推進します。
4. 水使用量の削減
 - ①自動節水器、節水表示板を設置し水使用量を削減します。
5. エコケーブルの提案
耐燃性を有し、リサイクルし易い「EM電線・ケーブル」を提案します。
6. ロードボランティア（首都高速浅田IC前の歩道清掃活動および花壇維持管理活動：樹木剪定・草刈り等の実施）で地域社会において環境美化の活性化に努めます。

2022年10月1日制定

2024年10月1日改定

昌栄電設株式会社

代表取締役 寺崎 孝浩

5. (基準年の環境負荷と)環境経営目標

環境目標	項目	基準年（実績）	年度目標	中期目標	
		2022年度 （通年）	2023年度（通年）	2024年度	2025年度
		22/10～23/9	1%削減	2%削減	3%削減
1. 二酸化炭素排出量削減	CO ₂ 総量 (Kg-CO ₂)	25,387	25,133	24,879	24,625
① 電力使用量の削減	電力使用量 (kWh)	19,889	19,690	19,491	19,292
② ガソリン使用量の削減	ガソリン 使用量 (L)	4,265	4,222	4,179	4,137
③ 軽油使用量の削減	軽油 使用量 (L)	2,597	2,571	2,545	2,519
2. 一般廃棄物排出量の削減	一般廃棄物 排出量 (Kg)	733	725	718	711
3. 産業廃棄物再資源化率の向上	再資源化率 (%)	100	100	100	100
4. 水使用量の削減	水の使用量 (m ³)	96	95	94	93
5. エコケータブルの提案	提案件数 (回) (受注件数)	4	5	6	7
6. ロードボランティア	歩道清掃 花壇維持管理 (回)	376	379	383	387

※電力のCO₂排出係数は0.442Kg-CO₂/KWhを使用。

※当社は化学物質を使用していません。

6. 環境経営計画の内容

当社の環境保全に向けた具体的な取組の内容を以下に示します。

1. 二酸化炭素排出量削減

(1) 電気使用量の削減

- ① 使用していない照明やパソコンを消すことによる電力使用量の抑制
- ② 冷暖房の温度の設定管理とエアコンの清掃

(2) ガソリン使用量の削減

- ③ 燃料効率の良い速度で運転
- ④ 高率の良い配車計画による車利用
- ⑤ アイドリングストップ
- ⑥ 適正な空気圧の保持
- ⑦ 適正な車両の整備

(3) 軽油使用量の削減

- ① 燃料効率の良い速度で運転
- ② 高率の良い配車計画による車利用
- ③ アイドリングストップ
- ④ 適正な空気圧の保持
- ⑤ 適正な車両の整備

2. 廃棄物排出量の削減

- ① 廃棄物の分別の徹底
- ② コピー用紙の裏紙利用

3. 産業廃棄物リサイクル率の向上

- ① 産業廃棄物の分別の徹底
- ② マニフェストの確実な発行

4. 水使用量の削減

- ① 節水意識の喚起
- ② 節水表示板の設置（自動節水器の一部設置）

5. エコケーブルの提案

エコケーブルの提案件数を増やしていきます。

6. ロードボランティアを行い地域に貢献します。

首都高速浅田 I C 前・歩道部の清掃及び花壇維持管理活動（樹木選定・草刈り）

7. 環境経営計画、環境経営目標の実績、取組結果とその評価

環境活動計画	取組結果とその評価（2023年10月～2024年9月）			
	環境目標	実績	達成区分	環境経営計画の取組み評価
1. 二酸化炭素削減 kg-CO2	25,133 Kg-CO2	29,098 Kg-CO2	×	・電気、ガソリン、軽油の使用量増加に伴い二酸化炭素の排出量増加。目標未達成。
① 電力使用量の削減 ・エアコンの温度管理 ・消灯の徹底	19,690 kWh	20,114kWh	×	・残業時間の増加により電気使用量の増加。 ・気温上昇により例年より低い温度設定でエアコン稼働した。
② ガソリン使用量の削減 ・車両の点検整備の徹底 ・エコドライブの徹底 ・運転者教育の実施	4,222 L	4,466 L	×	・業務量増加に伴い、走行距離・車両使用頻度の増加。
③ 軽油使用量の削減 ・車両の点検整備の徹底 ・エコドライブの徹底 ・運転者教育の実施	2,571 L	3,822 L	×	・業務量増加に伴い、走行距離・車両使用頻度の増加。
2. 廃棄物排出量削減 ・廃棄物分別の徹底 ・排出量の測定 ・コピー用紙の裏紙使用	725 Kg	486 Kg	○	・廃棄物「分別の徹底」と「コピー用紙の裏紙使用」でペーパーレスの取組みにより目標達成。
3. 産業廃棄物リサイクル率の向上 ・廃棄物分別の徹底 ・マニフェストの発行	100%維持	100%維持	○	・分別の徹底により目標達成。 ・廃棄物分別の徹底 ・マニフェストの確実な発行
4. 水使用量の削減 ・節水意識の喚起 ・節水表示板の設置	95 m ³	93 m ³	○	・車輛洗浄の使用頻度を減らし目的達成。 ・自動節水器を2台設置により目標達成。
5. エコケーブルの提案	5回	6回	○	・エコケーブルの提案件数を増やしていく
6. 社会貢献活動の推進（ロードボランティア）	379回	402回	○	・計画通り3か月間で45回以上実施できたので今後も継続していく。

○：目標達成、×：目標未達

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境目標	環境経営目標及び環境経営計画（2024年10月～2025年9月）			
	基準値	環境目標 2%削減	担当者	次年度の取組内容
1 二酸化炭素 排出量削減	25,387 kg-CO ₂	24,879 kg-CO ₂	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量の削減 ガソリン、軽油使用量削減
① 電力使用量の削減	19,889 kWh	19,491 kWh	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> エアコンの温度管理 消灯の徹底 不使用機器電源 Off の徹底
② ガソリン使用量の 削減	4,265 L	4,179 L	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> 運転者教育の実施を再度行う エコドライブの徹底 車両の点検整備の徹底 効率の良い配車計画
③ 軽油使用量の 削減	2,597 L	2,545 L	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> エコドライブの徹底 車両の点検整備の徹底 効率の良い配車計画
2. 廃棄物排出量削減	733 Kg	718 Kg	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> 排出量把握の徹底を図る。 コピー用紙の裏紙使用 分別廃棄の徹底
3. 水使用量の削減	96 m ³	94 m ³	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> 節水表示板の設置 自動節水器の設置 漏水のチェック
4. 産業廃棄物 リサイクル率の向上	100% 維持	100% 維持	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物分別の徹底 マニフェストの確実な発行 現場パトロールの強化
5. エコケーブルの 提案	4回	6回	伊藤	<ul style="list-style-type: none"> エコケーブルの提案件数を増やしていく
6. 貢献活動の推進 (ロードボランティア)	376回	383回	金澤	<ul style="list-style-type: none"> 首都高速浅田IC前・歩道部の清掃活動及び花壇維持管理活動の継続していく。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

承認	確認者
寺崎孝浩	伊藤夢一

適用環境関連法規等	適用される事項（施設、物質、事業活動等）	確認	確認日
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理、産業廃棄物（汚泥、金属クズ、廃プラ、廃油等）マニフェストの交付、産業廃棄物管理票交付状況報告書の提出	○	2024年 9月1日
建設リサイクル法	特定建設資材リサイクル	○	9月1日
容器包装リサイクル法	容器包装廃棄物の適正処理	○	9月1日
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理	—	9月1日
小型家電リサイクル法	使用済み小型電子機器の適正処理	—	9月1日
自動車NO _x ・PM法	使用車両の窒素酸化物、排出基準に適合	○	9月1日
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検、管理 冷媒用フロンの適正回収、破壊の措置	○	9月1日
建築基準法	石綿含有物の使用禁止、内装仕上げ材	—	9月1日
廃PCB特別措置法	廃PCBの保管及び適正処置	—	9月1日

一 期間中非該当

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

1 二酸化炭素増加 ①②③電力・ガソリン・軽油使用量の増加

電力・ガソリン・軽油使用量の増加に伴い、二酸化炭素排出量が増加した。

これは主に活動期間での受注増加による稼働率上昇の影響が大きいと思われる。従業員の二酸化炭素削減への取り組みは概ね実施できており、今後は稼働率が高まってもエコドライブの徹底を含め結果を残せるよう更なる意識改革を進めていく。

2-① 一般廃棄物排出量削減

一般廃棄物排出量について、事務所・書庫のスリム化に伴い一般廃棄物の整理処分により削減できた。今後は廃棄物「分別の徹底」と「コピー用紙の裏紙使用」でペーパーレスの取組みに向け今後は更なる削減を図る。

3. 水使用量の削減

水使用量については、節水表示板の設置および自動節水器等の導入により、大幅に削減できた。

全体

未達成の分野が半数あった。しかし環境活動においては概ね実施できていた。

また、目標達成の分野においても更なる改善と創意工夫が必要であり

今後も、環境影響を低減するために、社員に対して環境方針の周知を図るとともに、環境教育、人材育成を積極的かつ継続的に行い、環境マネジメント活動を推進し、より一層の環境配慮型事業を目指します。

以上